

第43回松戸市青少年姉妹 都市等派遣報告書 ホワイトホース市

公益財団法人 松戸市国際交流協会
松戸市 文化スポーツ部 国際推進課



内容

派遣者名簿

派遣日程表

実施記録

派遣生徒感想文



青少年姉妹都市等派遣事業

昭和46年から姉妹都市交流が続いているオーストラリアビクトリア州 ホワイトホース市に当協会主催の松戸市高校生英語スピーチコンテストの上位入賞者及び公募の中高校生を派遣する事業です。

両市相互の国際交流を促進するとともに、ホームステイによる滞在と、中高一貫校での授業体験や課外活動をとおした同世代交流とともに、現地において松戸市及び日本の学校生活の紹介を行います。また、派遣後は報告書の作成と次年度の松戸市高校生英語スピーチコンテスト会場で派遣報告を行っています。

派遣者名簿

2025年3月時点

氏名	学校名	学年
木内 響音	品川女子学院高等部	高3
長谷川 紗希	千葉県立松戸国際高等学校	高2
木村 彩希愛	千葉県立松戸国際高等学校	高2
田中 理子	千葉県立小金高等学校	高1
實川 真依	専修大学松戸高等学校	高1
石倉 みなみ	松戸市立松戸高等学校	高1
焼山 結菜	江戸川学園取手中学校	中3
渡辺 真琴	松戸市立第二中学校	中2
玉村 四季	松戸市立小金南中学校	中2

ダウド マイケル	公益財団法人松戸市国際交流協会	引率 職員
沖山 素	松戸市 文化スポーツ部 国際推進課	

青少年姉妹都市等派遣事業（ホワイトホース市）日程表

月日	現地時間	スケジュール
2025年 2/10 (月) 成田空港発	17:00 19:20	成田空港第2ターミナル集合 カンタス航空にて空路、メルボルンへ 宿泊：機内 
2/11 (火) メルボルン ホワイト ホース クーナン校	07:45 12:00 13:00 14:00 15:00	メルボルン着（入国審査、税関） 移動 メルボルン市内見学 ・クイーンビクトリアマーケット ・セント・パトリック大聖堂 ・フィッツロイ・ガーデンズ 昼食：ステーキ&フライドポテト ビストロ・ビスー クーナン校へ ウェルカムセレモニー ホストファミリーと対面 移動、各ホストファミリー宅へ 宿泊：ホストファミリー宅泊   
2/12 (水) ~ 2/14 (金) ホワイト ホース	08:30	クーナン校にて ・スクールアクティビティ ・通常授業体験 宿泊：ホストファミリー宅泊   

<p>2/15 (土) ・ 2/16 (日) ホワイト ホース</p>	<p>各自</p>	<p>ホストファミリーと過ごす</p> <p>宿泊：ホストファミリー宅</p> 
<p>2/17 (月) ホワイト ホース ↓ メルボルン</p>	<p>08:30</p> <p>13:30</p>	<p>クーナン校にて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒールズヴィル自然保護区へ遠足 <園内を散策> ・園内施設でバーベキューランチ <p>専用車にてメルボルン市内へ スカイデッキ88見学 フリンダースストリート フリンダースストリート駅 ホージャー・レーン ホテルチェックイン 自由散策</p> <p>夕食：バットマンズヒル・オン・コリンズ 内のレストラン</p> <p>宿泊：バットマンズヒル・オン・コリンズ</p> 
<p>2/18 (火) メルボルン ↓ 成田空港着</p>	<p>6:30</p> <p>10:25</p> <p>18:40</p>	<p>ホテルチェックアウト</p> <p>カンタス航空にて空路、成田空港へ</p> <p>成田空港到着</p> 

実施記録

2月10日（月）

成田空港発 メルボルンへ



2月11日（火）

メルボルン空港到着～メルボルン市内観光～クーンラン校



①クイーン・ヴィクトリア・マーケット

南半球最大の市場として知られるクイーン・ビクトリア・マーケットは、1878年にオープンした、歴史のあるマーケット。



②フィッツロイ・ガーデンズとセント・パトリック大聖堂

150年の歴史があるフィッツロイ・ガーデンズはオーストラリアのネイティブ植物が生い茂る公園で、そのすぐ隣には壮大なセント・パトリック大聖堂が建っている。



③昼食



クーンン校へ

ウェルカムセレモニー

派遣生徒とホワイトホース市長・職員、クーンン校の校長・先生、バディをはじめとした生徒や生徒会長が出席。ホストファミリーとも顔合わせを行い、そのまま各ホームステイ先へ移動した。



2月12日(水)~14日(金)

通常授業体験



日本語授業体験



芸術授業



料理教室



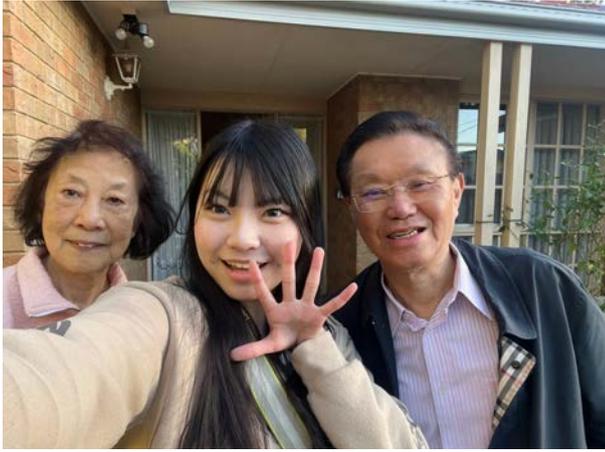
日本文化紹介のプレゼンテーション

派遣生徒によるプレゼンテーション（折り紙を紹介）



2月15日(土)ー16日(日)

ホストファミリーと各自過ごした



2月17日(月)

クーン校・ヒールズヴィル自然保護区へ遠足



お別れ



メルボルン市内観光

①ユーレカ スカイデッキ88

2006年に完成し、元オーストラリア一番の高層ビル。
(高さは297メートル)



②フリンダース・ストリート駅

フリンダース・ストリート駅は、1854年に完成し
オーストラリアの歴史的な駅。メルボルンのシンボルとして国内
外から愛されている。



③ホージアレーン

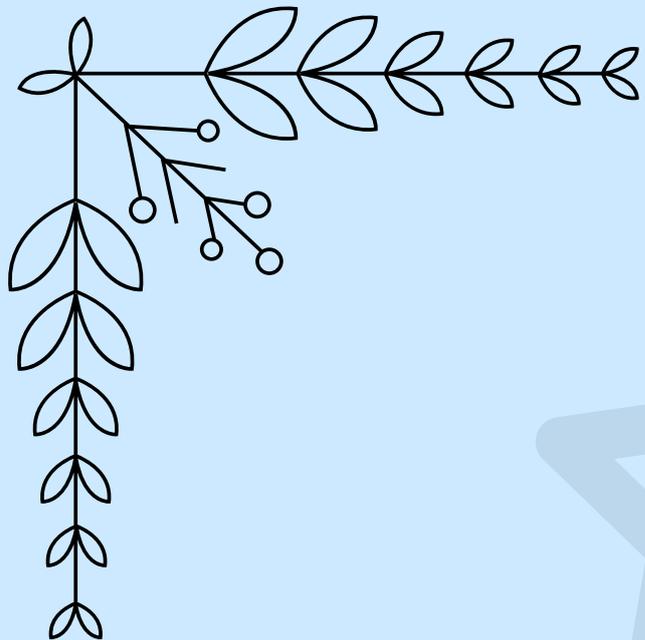
ホージアレーンは、フリンダース・ストリート駅の近くにある小さな路地で、定期的に変わる落書きと、新進気鋭の現代アーティストの作品のギャラリーになっている。



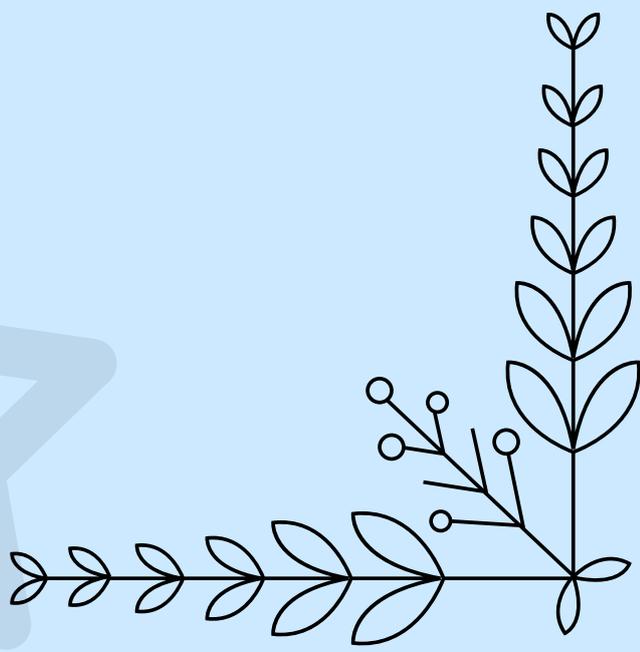
④市内見学

メルボルンの素敵な雰囲気を楽しみながら、様々な街の魅力を発見した。





派遣生徒
感想文



ホワイトホース市での貴重な体験 木内 響音

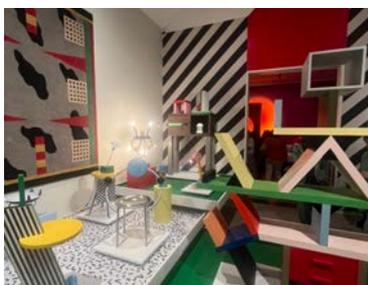
私は、ホワイトホース市への派遣留学を通じて、さまざまな貴重な体験をしました。はじめは、現地の人たちと英語で会話することに不安を感じ、緊張していました。しかし、バディやホストファミリーに初めて会ったとき、彼らはとても優しく、私の英語のレベルに合わせてゆっくり話してくれたため、すぐに緊張がほぐれました。そのおかげで、積極的に会話を楽しむことができ、充実したホームステイ生活を送ることができました。

ホストファザーは毎日学校まで送迎してくれたうえ、休日には美術館や大型ショッピングモールなど、私が行きたかった場所に連れて行ってくれました。特に美術館では、ルネサンス時代の家具の展示会を見学しました。英語の説明文が難しく感じましたが、ホストマザーが丁寧に解説してくれたおかげで、理解が深まり、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、オーストラリアの文化だけでなく、インドネシア出身のホストファミリーだったこともあり、インドネシア料理を体験したり、デヴィ夫人の話題で盛り上がりたりするなど、多文化に触れる機会も得られました。

現地の学校では、日本では受けたことのない授業を体験しました。特に「料理の化学」の授業では、食材の成分や調理による変化について学ぶことができ、とても新鮮で興味深かったです。また、バレンタインデーには、生徒会のメンバーが授業中にサプライズで登場し、歌を披露するという素敵なイベントがありました。日本の学校ではなかなか経験できない文化の違いを感じ、オーストラリアならではの温かい雰囲気を実感しました。

私のバディはとても親切で、授業中や休み時間に学校生活について詳しく教えてくれました。特に驚いたのは、日本語の授業を受けている現地の生徒たちが、とても上手に日本語を話していたことです。彼らが日本の文化に興味を持ち、一生懸命学んでいる姿を見て、とても嬉しく感じました。また、クーン校の生徒や先生はみんな気さくに話しかけてくれたため、すぐに学校生活にも慣れることができました。

9日間の留学は本当にあっという間で、毎日が充実し、とても楽しい時間を過ごすことができました。この経験を通して、異文化を学ぶことの楽しさや、人と積極的に関わることの大切さを改めて実感しました。最初は不安もありましたが、勇気を出して英語を話し、現地の人たちと交流することで、多くの学びと自信を得ることができました。この経験を活かし、今後も英語の勉強を続けるとともに、異文化理解を深めながら自分の可能性を広げていきたいと思います。



オーストラリアの美しさはその 長谷川 紗希 「クールチェンジに」

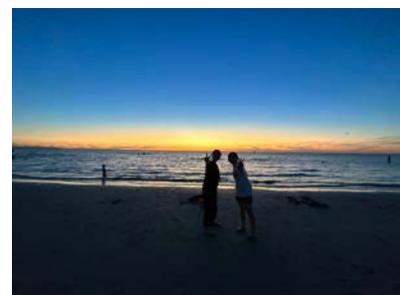
まず、本当に毎日が楽しかったです。友達ができるか、ホストファミリーとうまくやっていけるかと不安なこともたくさんありましたが、その不安がすぐに消えてしまうくらい、楽しくて幸せで、あっという間に時間が過ぎていきました。

ホストファミリーとビーチに行ったことや、ショッピングをしたこと、クーンン高校で過ごしたこと、校外学習に行ったこと、どれも本当に楽しかったです。ビーチには日の入りの時間に行ったので、夕日と白い砂浜がとても美しく、海に入ったり、ホストファミリーと話しながら歩いたりして、心から楽しむことができました。クーンン高校では、たくさんの生徒が話しかけてくれ、日本語で話しかけてくれる子もいて、連絡先を交換しようと言ってくれる子もいました。みんなが温かく優しく接してくれて、慣れない環境で不安もありましたが、楽しく過ごすことができました。気遣ってくれたり、できたことを褒めてくれたり、時にはいたずらをしてきたりして、言語の壁は関係ないと感じさせてくれた、陽気な2人のパディに出会えたことも最高の思い出です。

この派遣期間を通じて、オーストラリアのことをたくさん学びました。特に印象に残っているのは、メルボルンには「クールチェンジ」という現象があることです。これは、南極からの冷たい風によって気温が急激に下がる現象で、クールチェンジのおかげで夏でも暑さと涼しさが交互に訪れるため、夏バテがないそうです。派遣中にもクールチェンジを体験し、40度近い気温が20度くらいまで下がったので、驚くとともに、日本よりも過ごしやすい夏だなと感じました。

オーストラリアではたくさんの挑戦がありました。特に食べ物に関しては毎日が新しい挑戦でした。特にパンは、日本にはない種類が多くありましたが、どれも美味しく、日本に持ち帰りたと思うくらいでした。中でも、「ホットクロスバンズ」という上にクロスのアイシングがかかっているパンと、「ガーリックパン」が、とても美味しくお気に入りです。

現地に行く前は不安が大きく、きっとホームシックになってしまうだろうと思っていましたが、実際に過ごしてみると毎日が楽しく、あっという間に時間が過ぎて、日本に帰りたくないとさえ感じました。そして、オーストラリアのことが大好きになりました。まだ英語力が十分ではないので、もっと勉強して、またオーストラリアに行きたいと思っています。



小さな挑戦

木村 彩希愛

私はこの派遣で色んなことに挑戦し、何かを得て帰るという目標を掲げていました。一週間で何ができるだろうかと自分でも不安に思っていました。オーストラリアで過ごした一週間は日本にいる時の一週間とは大きく違い、毎日が楽しく充実していました。

私が今回の一週間の中で一番心掛けていたことは英語を間違えることを気にしない、翻訳を使わないということです。全く使わないというわけではなく1日の終わりにはわからなかったことや言えなかった言葉を調べたり復習をしたりと必要な時にだけ使うことにしていました。そのおかげで、ホストファミリーやバディーには自分のリアルな英語が伝わって何より自分で英語を考え話す力がついたと思います。オーストラリアでの生活では毎日家に近所の人やホストファミリーの家族や友達に来て出会いがたくさんある日々でした。その時に知ったのが日本との挨拶の文化の違いです。日本人は挨拶でハグをすることもキスをすることもありませんが、他の国ではそれが当たり前でした。最初は戸惑いがありました。が段々と受け入れられるようになり、そしてコミュニケーションを取るための良い挨拶の方法だと実際に経験して思いました。ホームステイ初日は不安と緊張でどうしようかと思っていました。が、コミュニケーションをとり続けることで最終日には緊張もなくリラックスして喋れることに自分自身驚きました。何事もやってみないとわからないなと本当に思います。

海外で何かに挑戦することは本当に大変ですが私は翻訳を使わないという小さな挑戦をしたことで自分の未熟な英語力でも耳を傾けてくれる人もいるし話しかけて来てくれる人もいると知りました。それだけではなく今後もっと英語力を上達できるように努力しようというモチベーションにも繋がりました。高校生の間に海外でホームステイや学校に通うという素敵な経験ができて本当に良かったです。



6年越しのリベンジ

田中 理子

～オーストラリアで見つけた温かさと成長～

私がこの松戸市青少年姉妹都市派遣事業に応募したのには理由があります。私は6年前に一度、オーストラリアにホームステイをしました。しかし、そのときの私はまだ幼く、ホームシックになってしまい、現地で英語を使うことを楽しめませんでした。そのため、「もう一度挑戦したい」という思いから、今回の事業に応募しました。

オーストラリアでの生活は、毎日がとても充実していました。ホストファミリーやバディ、クーン校の生徒たちは、みんな心温かく、優しい人ばかりでした。ホストマザーは手作りのクッキーを焼いて迎えてくれ、毎日寝る前と朝にハグをしてくれました。その温もりと甘い香りは今でも忘れられません。お別れの前日、私が「してもらってばかりでごめんなさい」と伝えると、ホストファザーは「家族なんだから」と笑顔で言ってくれました。その言葉を聞いた瞬間、思わず泣きそうになったのを今でも鮮明に覚えています。バディのエリーは、私が謝るたびに“*That's OK.*”と笑顔で受け入れてくれる、明るく優しい子でした。彼女の笑顔を見るたびに、英語を話すことへのためらいが次第に薄れていったように感じます。また、クーン校の生徒たちは、スナックタイムやランチタイムになると、自分の持ってきたパンをちぎって「いる？」と声をかけてくれました。彼らの優しさのおかげで、私はすぐにみんなの輪に入ることができました。オーストラリアで出会った人々は、緊張や不安で萎縮していた私を温かく包み込んでくれるような存在でした。今では、その温かさが恋しくてたまりません。

私は今回のホームステイで、6年前のリベンジを果たすことができたと思います。滞在中は、「思ったことや感じたことを心の中に留めず、積極的に口に出す」ことを意識しました。そのおかげもあって、英語が伝わる嬉しさや、聞き取れる喜びを実感し、改めて英語の楽しさに気づくことができました。この経験は、これからの英語学習への大きな活力となりました。



日本との違いを味わう

實川 真依

私は、このプログラムを通じてたくさんの方のことを学び、挑戦する機会となりました。まず、楽しかったことの一つは、現地の学校で過ごした時間です。メルボルンの学校と日本の学校との違いを楽しむことができました。特に、授業の進行が自由で、先生と生徒が言い争っていたことが印象的でした。日本の学校と同じだなと思ったところは、生徒が授業中に内職したりゲームをしたりしていたことです。このような環境に触れることができたのは、私にとって大きな刺激となり、学校に通うのがとても楽しかったです。

また、学校の机の下にガムがたくさんひっついてのを見て、面白かったので写真を撮りました。ホストファミリーといった飲食店でもフェイクグリーンにガムが付いていて驚きました。それを写真に撮るのは忘れませんでした。特に印象に残ったのは、バレンタインデーの出来事です。生徒たちが教室で突然歌い始め、踊り出す光景を目の当たりにしました。自由な雰囲気、みんなで楽しくお祝いしている様子がとても新鮮で、面白いなと思っていました。ある男の子の名前をチャンティングしていたので、その人は誰なのかとバディに聞いたところ、衝撃的なエピソードを聞き出すことができました。それまで面白いなあと感じていた空気に、少し恐怖を感じました。私にとって特別な思い出となりました。

さらに、ホームステイ先の家族と過ごす時間も充実していました。週末にはホストファミリーとショッピングモールやビーチに訪れたりしました。また、ホストファミリーが住んでいた場所には牛や馬、羊がたくさんいて、ホストファザー自慢のハイスペックなテスラに乗っているとそれらの動物を見かけることが多く、とても驚きました。日本では見られない光景だったので、オーストラリアの自然を実感することができました。週末には、ホストファミリーに連れられて、フィリピン人の教会のパーティーにも参加しました。そのパーティーでは、APTダンスを踊りました。前日に練習していたため、しっかりと踊ることができました。また、フィリピン料理が振る舞われました。もともとフィリピン料理を食べてみたいと思っていて楽しみにしていました。特にカルデレータ気に入りました。ホストファミリーがフィリピン出身であったため、彼らからフィリピン文化や食べ物について直接学ぶことができ、異文化交流が深まる素晴らしい時間となりました。また、フィリピン語を学ぶ機会も得ることができました。フィリピン語を少しだけ知っていたので、それらを発したらとてもよろこんでくれました。簡単なフレーズや単語をさらに覚え始め、少しずつその言葉に親しみを感じました。帰国してからも、フィリピン人と話すときにフィリピン語で挨拶すると喜んでくれるので覚えてよかったなと感じています。

さらに、私はホストファミリーと一緒にゴルフをする機会もありました。ホストファミリーは裕福で、ゴルフをよく楽しんでいるということでした。初めてのゴルフ体験だったので、空振りした動画を撮られて恥ずかしかったです。ホストファミリーが優しく教えてくれたおかげで、少し飛ばせるようになりました。ゴルフを通じて、ホストファミリーとの交流を深めることができました。このような経験は日本ではなかなかできないことであり、非常に貴重な思い出となりました。



私はこの派遣に行くことになってからずっと不安でいっぱいでした。人見知りなのでホストファミリーや、この派遣メンバーの皆ともちゃんと話せるかずっと不安でした。不安な気持ちで迎えた当日。派遣メンバーの皆は凄く優しく話しかけてくれて凄く嬉しかった事を覚えています。海外に行くのは初めてでずっと夢だったのでとてもわくわくもしていました。クーン校では沢山の事を学びました。色々な国籍の人たちがいて、肌の色、髪の色やそれぞれが持っている個性が活かされていると感じました。日本の学校は髪の色もみんな同じ、肌の色も偏っているので私は驚きもありました。また、バディやバディの友達も沢山話しかけてくれて、日本語で頑張って話そうとしてくれる子もいたり、外国人だからといって差別する人も1人もいませんでした。私が一人にいる時は仲間に入れてくれて、先生方も親切にしてくれてとても過ごしやすい学校でした。私は自分が外国人側になって、留学生として人と関わる事は今まで無かったけど自分のクラスに留学生が来たりということは何度かありました。逆の立場になってみて、話しかけてもらえることはどの言語であっても嬉しいものだと感じました。

また、ホストファミリーもとても親切な方でした。いつも笑顔でゆっくり聞きやすい英語を使ってくれて、私のことをあだ名で呼んでくれました。ホストファミリーは自分の家みたいにリラックスしていいんだよ、またオーストラリアに来たら絶対来てね！無料で泊めてあげると言ってくれました。本当の家族みたいになれてとても嬉しかったです。ホストファミリーは日本にも何度か来ている方で、今年もまた来るそうなのでまた会おう！と言って貰えました。会える日が待ち遠しいです。たった数日だったけどホストファミリーは色んなところに連れて行ってくれたり、色々な国の料理を食べさせてくれて本当に良くしてくれました。この派遣で今の自分のコミュニケーション能力の課題がよくわかったので、それを改善して今年にある学校で行く海外研修の際に活かしたいと思います。また、私の学校には6月にクーン校の生徒が来ます。その時は私が今回色々してもらった事を恩返しとして同じようなことをしたいと思います。良い機会をありがとうございました！



日本出国時、期待と不安が入り混じっていました。私は特に積極的な性格でも、英語が得意なわけでもありません。しかし、一緒にオーストラリアへ行く仲間たちや心強い付き添ってくれた沖山さんやマイケルさん、フレンドリーなクーンン校生徒、優しいホストファミリーのおかげでとても楽しい時間を過ごせました。

オーストラリアでクーンン校に通ううちに日本の学校の制度との違いを見つけることが出来ました。まず、授業の長さの違いです。私の学校は1コマ45分なのに対して、クーンン校は1コマ58分でした。全て英語の授業ということもあり、あまり理解できなかったところ、バディがよく気にかけてくれました。そのため長い授業でも楽しかったです。1コマ58分ということで、お昼の時間が遅くなるためスナックタイムという日本でいう行間休みのようなものがありました。その名の通り、スナックタイムとは生徒たちがおやつを食べる時間です。家からおやつを持ってくる生徒もいれば、売店で買う生徒もいました。生徒たちが中庭や売店前に集まってお菓子を交換している姿も多く見受けられました。そして、何より驚いたのが特定の教室やクラスメイトがないことです。クーンン校は日本でいう大学のような形態で授業ごとに教室や一緒に受ける生徒が異なります。基本一階建の校舎で教室数も多いので移動が大変でした。また、生徒たちはとても優しく、見ず知らずの相手でもドアを押さえ続けてくれたり、拙い私の英語を褒めてくれました。

オーストラリアで過ごす中で特に楽しかったのはホストファミリーとの時間です。積極的に話しかけてくれたり、簡単な英語を使ってくれました。私のホストファミリーの家では夕飯は家族全員で食べるのですが、オーストラリアへ来てまだ日が浅い頃、ホストファミリーの会話が速くあまり聞き取れませんでした。しかし、日が経つにつれて会話が聞き取れるようになり、ホストファミリーとの会話を楽しめました。日本に帰国した今でもアンザッククッキーのレシピを送ってくれたりと連絡を取り続けています。

聞き取りづらかったり、英語が理解できないことも多くありましたが、その度にホストファミリーやバディはゆっくり話してくれたり、簡単な英語を使ってくれたりと現地の方々の優しさに触れました。将来、ホストファミリーやバディに会いにまたオーストラリアを訪れたいです。

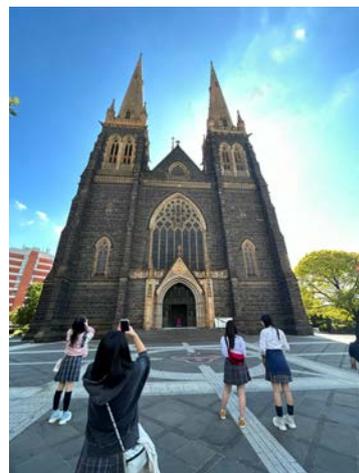


私は、学校の先生からこの話を進められオーストラリアへの短期留学への参加を決めました。最初はもちろん全く知らないことだらけで、そもそも自分には世界の人々との交流やホームステイなどは難しく、縁遠いものと思っていました。ですが、今思えば海外派遣の話を知っていた時、派遣メンバーに選ばれた時から、心は決まっていた気がします。

オーストラリアに到着した時は、言葉では表しきれない気分でした。早くこの人々と話して、早くこの土地のいろんな景色を見て、早くこの環境に慣れたいという感覚でした。全く違う人生の1歩は私にとってかけがえのない、忘れることのない体験です。ホストファミリーの家も豪華で、ファミリーやクーン校の生徒たちも人柄が良く、安心して言葉が通じるかと言う気持ちや、自分の言語では話せない不慣れなところで疲れることもありましたが、そのたびに頻りに話をして、もっと仲良くなっていきたいという強い思いがありました。私は事前に使ってみようと思った言葉をメモしていたので、たくさん使って話題を広げようとしていたり日本語が上手なバディにわからない単語などはハッキリ伝えて教えてもらっていたことが自分の行動の中で良かったことだと思います。徐々にうまく馴染めて言っていたような気がして楽しかったです。そして、日本に帰国してからも同じく派遣された松戸市のメンバーたちや現地の人々との関わりを通して住んでいた国は遠くても自分自身でもっと英語力をつけ、自分自身の言葉や声ですらすら話せるようになったら、本当にかっこいいと思うと同時にもっと頑張りたいという思いでいっぱいでした。

オーストラリアの豊かな自然、生活や学校での様子、気候、身の回りのものなど数え切れないほどの日本と違う意味での素晴らしさがあり、また、それらを見つける素晴らしい機会をくださった松戸市や関係者の方々、後押しし支えてくれた家族に感謝しています。

本当に良い選択をしたと信じています。そしてこれからも良い選択だったと胸を張っているように生かしていきたいです。短い期間でしたがとてもこれ以上ないほど有意義な時間でした。本当にありがとうございました。



私はオーストラリアへ行く前は 玉村 四季

オーストラリアに住んでいる人たちは、カンガルーやオーギービーフ、フィッシュ&チップスなどの肉料理や揚げ物などのジャンクフードが主流だと想像していました。何故なら私が想像していたオーストラリアの食文化とは、アメリカとイメージがあまり変わらなかったからです。しかし、実際に足を運んでみると、想像とは全然違いました。米やパスタ、パンなどたくさんの主食を取り入れていました。

毎日食事をする中で日本との共通も発見しました。それは、たくさんの食文化が入り混じっているということです。日本では現在国外からの留学生や労働者がいて、私の街にも外国料理屋がたくさんあります。実際私の家でも夕食として、ベトナムのフォーや、インドのスパイスカレーを食べたりしています。和食を当然食べますが、毎日食べていません。オーストラリアもそれと同じでした。街にはアジア人やアフリカ系も多く見かけたし、実際私のバディもアジア人でした。だから、オーストラリアで食べた食事でも伝統的なオーストラリア料理であるフィッシュ&チップスやアンザッククッキーも食べましたが、それだけではなく、カレー、パスタ、ピザなど日本で日常的に食べられている料理もたくさん食べました。

私たち日本人と同じように多種多様な食文化が共存しているのだと思いました。これに対し気づいたことは食文化は国や人種によって分断されるものではないということです。おいしいものは、全世界で人気が出て異文化の人にも親しまれて根付いていくものだと思います。食文化の違いを、学ぶことを目的としていましたが、実はその大部分が私の想像の中で作られていたものだと気づきました。これは実際に足を運ばなければ気づくことができなかつたことだと思います。この活動を通して、学ぶとはまずは想像すること、そして次に実際に足を運んで体験することが重要なんだと思いました。





姉妹都市 ホワイトホース市

Sister City Whitehorse

オーストラリアビクトリア州の州都メルボルンから東へ約15km、電車で約20分の距離にある街。面積は約64km²で松戸市（約61km²）とほぼ同じ広さ。人口は約17万人で、松戸市（約50万人）のおよそ3分の1です。

ホワイトホース市は、約350の公園や保護地区をもち「ガーデン・シティ」とも呼ばれ、自然の緑と人々の活気が調和した街です。また、市内には小学校が38校、セカンダリー・カレッジ（中・高校）が14校、専門学校が1校、大学が1校あり、社会人向けの生涯学習施設も充実していて、「City of Learning(学びゆく都市)」をモットーにした街づくりを進めています。

松戸市とは1971年（昭和46年）より姉妹都市提携を結んでおり（当時はボックス・ヒル市）、2024年（令和6年）5月12日で姉妹都市提携53周年を迎えました。

